



泉区



実施までの準備

泉区は自宅での看取り率が13.3%と最小です。2035年には、死亡者数は1.5倍(2015年比)になると推計されており、今後在宅医療や看取りの増加が見込まれるため、「ACP」の啓発や人材育成が必要です。

そのため、今年度は「ACP」の普及啓発を重点とし、在宅医療相談室との連携や、医療局のACP人材育成研修を実施し、一体的に取り組めるよう計画をしました。

実施概要

第1回

研修タイトル VRで看取りの当事者体験

実施方法 会場での開催

日 時 令和4年8月18日(木)14時～16時30分

場 所 泉区医師会館 3階会議室

内 容 講演(VR体験)・グループワーク

「VRで看取りの当事者体験」(株式会社シルバーウッド 黒田 麻衣子氏)

- 講師からは、VR体験の内容に合わせて、「なぜACPが必要なのか」や「実際のACPの進め方やポイント」についての話がありました。
- 救急搬送時の心肺蘇生や施設での看取り事例等のVR体験から感じたこと・考えたことをグループワークで共有しました。

参加者 33人

内 訳

①医師(1人) ②歯科医師(1人) ③行政職員(12人) ④ケアマネジャー(5人) ⑤ホームヘルパー(3人)
⑥施設介護員(3人) ⑦地域包括支援センター職員(5人) ⑧その他の職種(施設管理者等 3人)

第2回

研修タイトル あなたからはじめる「人生会議」

実施方法 会場での開催

日 時 令和4年10月27日(木)14時～17時

場 所 泉区医師会館 3階会議室

内 容 講演1「ACPの理解」(湘南泉病院 池島 秀明氏)

講演2「ACPの普及啓発方法」(横浜市すすき野地域ケアプラザ 小藪 基司氏)

グループワーク・まとめ(旭区在宅医療相談室 洪 正順氏)

- 横浜市ACP人材育成研修パッケージを活用し各講師から実体験を交えながら、ACPの必要性について講義がありました。
- 「価値の引き出し」グループワークを通して、参加者同士の価値観の違いに気づき、活発な意見交換が行われていました。

参加者 33人

内 訳

①医師(1人) ②訪問看護師(4人) ③歯科医師(2人) ④薬剤師(3人) ⑤行政職員(1人)
⑥ケアマネジャー(15人) ⑦施設介護員(2人) ⑧地域包括支援センター職員(4人)
⑨その他の職種(在宅医療相談室 1人)

参加者の意見

第1回

- 看取りについてしっかり学ぶ機会がなく、様々な知識や学びを得ることができました。
- 研修内容が、実際の悩みと当てはまっていて、考える材料をもらうことができました。
- グループワークで、多職種の看取りに対する思いや悩みを共有することができてよかったです。
- VR体験は初めてでしたが、自分が当事者になったような体験ができ、学びが深まりました。

第2回

- ACP=個々の尊厳、幸福追求のためのツールであることがわかりました。
- 自分の家族や地域でACPがまだ周知されていないことを考えさせられました。
- 終末期においては、ほとんどの方の意思決定が不可能なため、何かあってからでは遅く早め早めに考える必要があることがわかりました。元気なうちからACPを考えていきたいです。

研修の成果

第1回

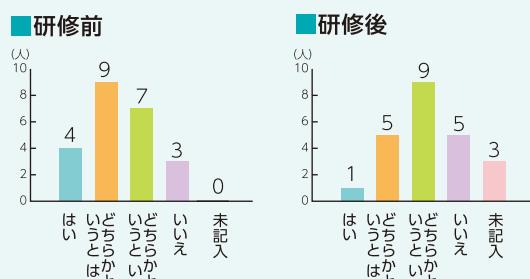
- VR体験や多職種との意見交換により、様々な立場での意見を共有することができ、ACPIについて考えるきっかけを提供することができました。
- VR体験は参加できる人数が限られるとともに高額なため、現状では広く普及啓発を行うツールとしての活用は困難ですが、今後は更なるACPの普及啓発や実践につなげるための学びを深める場の提供をしていきたいです。

第2回

- 講師の医療現場や日ごろの相談対応、自身の家族へのACP実体験を交えた講義や多職種とのグループワークにより、様々な立場での意見を共有することができ、参加者が一つの支援スキルとして、ACPを習得する機会を提供することができました。
- 今回の参加者が、さまざまな場面でACPを啓発していくことを期待します。

アンケート結果の一部 n=23

看取りを行うことに不安がある



今後の方向性と次年度に向けて

第1回

今年度は看取りのVR体験を活用し、ACPIに興味関心を持つきっかけづくりを行いました。次年度は人生会議の短編ドラマ等のツールを活用し、更なるACPの普及啓発に取り組んでいきます。

第2回

今年度は看取りのVR体験や横浜市ACP人材育成研修を活用し、支援者がACPIに興味関心を持つきっかけづくり、ACPを実践する技術習得のための研修を行いました。次年度は人生会議の短編ドラマ等のツールを活用し、更なるACPの普及啓発に取り組んでいきます。